

## 議題（3）西尾市地域公共交通計画の進捗について

### 西尾市地域公共交通計画事業進捗状況報告

#### 事業① - 1 タクシーサービスの利便性向上・活性化

- ドアツードアの特性を活かし高齢者、障害者、妊婦等のタクシー利用支援事業を実施。
- 常滑市、半田市、碧南市と連携したタクシーツアーの実施。
- ユニバーサルデザインタクシーの導入を補助。（1台10万円）
- タクシーの日（8月5日）イベントとしてユニバーサルデザインタクシー試乗会を実施。
- コロナ対策として「タクシー事業者運行維持緊急補助金」を創設。（1台5万円）



#### 事業① - 2 いこまいカーのサービス設定等の見直し

- 吉良地区において、地区公共交通協議会との協働により目的地拡大を実施。
- 75歳以上の免許証自主返納者を対象に運賃の100円割引を実施。
- バス交通の再編にあわせて、西尾地区・一色地区では地区内の拠点施設へ目的地を集約。  
幡豆地区では、先行している吉良地区をモデルに地区内の商業施設や医療機関へ目的地を拡大。
- 乗合方式からタクシー補助方式に転換し、予約利便性の向上や運行事業者の拡大を実現。

#### 事業② - 1 鉄道の維持・活性化

- 駅を発着点とし沿線を巡るウォーキングや利用促進大会の開催、啓発グッズの作成を定期実施。
- 10人以上の団体や小学生の親子を対象とした運賃補助制度によりにしがま線の利用機会を創出。
- 駅周辺での駐車場整備補助制度を新設し、パークアンドライドを促進
- 夏休み期間を利用し、小学生を対象に「にしがま線を描く会」を開催。
- 「にしがま線げんき戦略」を策定し、これまでの「利用促進」+地域外からの「誘客推進」の取組を実施。
- 名古屋周辺の大学生による沿線観光資源の掘り起こしや女性誌への沿線PR記事掲載
- InstagramやFacebook、YouTubeを活用した沿線の魅力発信
- 「海と山と赤い電車 西尾ぐるっとロゲイニング！」の開催に協力。
- 沿線散策マップ・沿線店舗用応援のぼり等の作成。
- 西幡豆駅、東幡豆駅、西浦駅、形原駅に二次交通としてレンタサイクルを整備。
- 名古屋鉄道との協議により、西尾市・蒲郡市が負担金を支払うことで令和7年度までの運行継続を合意。



## 事業② - 2 バスセンターの整備

○一色地区にていっちゃんバスの運行開始に伴い、市の再配置事業により公共施設を集約した一色町公民館に名鉄東部交通バス一色線、ふれんどバスの停留所を集約し乗継拠点とした。

## 事業② - 3 バス交通の再編、事業② - 4 新たな運賃体系の実施

○令和2年4月にバス交通再編を実施。六万石くるりんバスを3路線から8路線に拡大し、これまでバスが運行されていなかった地域や名鉄東部交通バスが廃止になった地域をカバー。

○市内を運行しているバス路線の運賃をすべて1乗車200円に統一したほか、名鉄東部交通バスからコミバスへの乗継割引や共通一日券、通学定期の共通利用等わかりやすく使いやすい運賃体系とした。



## 事業③ - 1 西尾市地域公共交通活性化協議会による事業管理とPDCAの実施

○毎年度計画記載事業の進捗管理及び目標達成状況の検証を実施。

○地区協議会が主体となって運行を開始したいっちゃんバスでは、地域自ら目標値設定や利用促進策、自己評価を行い、令和2年4月にはアンケート結果をもとにした見直しを実施。

## 事業③ - 2 地区公共交通協議会の設立、運営

○住民主体で地域内交通改善を進める地区公共交通協議会が4地区で設立され、地域と行政の協働による公共交通の見直しを実施。一色地区では「いっちゃんバス」の運行を開始し、吉良地区、幡豆地区では「いこまいかー」の目的地を地域内の医療機関・商業施設・公共施設等へ拡大した。



## 事業③ - 3 情報提供（公共交通マップ、乗継情報等）

○経路検索事業者（NAVITIME、ジョルダン、駅すぱあと）と連携し、路線情報の見える化を実施。

○民間路線も含めた市内全バス路線のGTFSデータを事務局で作成しGoogleマップに掲載。

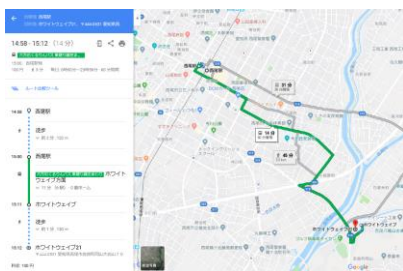
○市内公共交通を網羅した総合時刻表の作成。

○西尾警察署や民生委員等との連携により高齢者を対象としたバスの乗り方教室を実施。

○外国人向け情報冊子や市役所ロビーに設置の多言語情報モニターにてバスの乗り方案内を掲載

○個人のおでかけにあわせたマイ時刻表作成サービスの開始。

○バスロケーションシステム、混雑状況配信システムの導入。



### 事業③ - 4 地域のまちづくりや観光振興と一体となった施策の実施

- 各種団体との協働により、鉄道沿線ウォーキング等のイベントを多数開催。
- 公共交通を活用した観光キャンペーンの実施。
- 愛知こどもの国での大規模イベント開催時に、鉄道での来場者に対しグッズを配布。
- 観光との連携として、市民ボランティアガイドによる六万石くるりんバス車内での観光案内を実施。



### 事業③ - 5 エコ通勤・通学の実施

- 市が残額を負担することでバス通学定期の個人負担を月 3000 円に抑える「スクールパス」制度を実施。
- ふれんどバスにおいて、沿線高校の入学式等の場で定期券の出張販売を実施。
- 沿線中学校へ公共交通を利用した高校への通学案内チラシの配布。
- 愛知県と連携し、ショッピングセンターでの啓発活動や、市内企業を訪問し鉄道を利用したエコ通勤への協力依頼を実施。



【西尾市地域公共交通計画目標達成状況】

基本方針	指標	計画策定時	H28	H29	H30	H31R1	R2	最終目標
①	日常生活で移動に不便を感じている市民の割合	39.9%	—	41.5%	—	—	—	35% R3年度アンケート 実施予定
①	西尾市が住みにくい理由における「交通の便が悪い」の割合	76.2%	77.9%	—	79.3%	—	84.7%	60%
③	地区公共交通協議会が主体となった利用促進活動	未実施	未実施	実施	実施	実施	実施	実施
④	地区公共交通協議会との連携でPDCAを実施	未実施	未実施	実施	実施	実施	実施	実施

●基本方針①の指標については、いずれの指標も数値の減少を目標としているものの、直近調査では増加となり悪化してしまっている。現計画の主要事業である「バス交通の再編」を令和2年4月に実施したばかりで、直近調査にはその効果が表れていないと考える。また、交通に不便を感じるという回答が多い一方で、別の設問では「外出の際に移動手段に困ることはない」との回答が7割を超えているため、令和3年度予定のアンケート調査で詳細な分析を行いたい。

●基本方針③④については、地区内の公共交通改善を地域住民主体で進める「地区公共交通協議会」が4中学校区で設立され、一色地区では「いっちゃんバス」の運行開始、吉良地区・幡豆地区では「いこまいかー」の目的地拡大を実施した。運行開始して終わりではなく、それぞれの地区で継続的に利用促進や見直しが行われており、一色地区ではアンケート調査実施の上でルートの見直しを行い、吉良地区・幡豆地区では、民生委員や包括支援センター等の協力により高齢者への個別PRを実施している。

基本方針②公共交通機関の年間利用者数

下段（）内は目標値

	目標設定	計画策定時	H28	H29	H30	H31R1	R2	※R3.3.1時点
名鉄西尾・蒲郡線 <西尾駅～蒲郡駅>	対策協議会目標値 (前年比2%増加)	3,173千人 (H26)	3,358千人 (3,395千人)	3,390千人 (3,462千人)	3,409千人 (3,531千人)	3,324千人 (3,601千人)	— (3,673千人)	前年度比24%減 (4月-1月までの累計)
六万石くるりんバス <R2.4再編>	毎年10%ずつ増加	112千人 (H26)	115千人 (135千人)	118千人 (149千人)	119千人 (163千人)	119千人 (180千人)	— (198千人)	146千人 (4月-2月)
いっちゃんバス <H29.10運行開始>	1便平均5人以上の利用	—	—	2千人 (9千人)	3千人 (18千人)	3千人 (18千人)	— (18千人)	2千人 (4月-2月)
いこまいかー <H30.3・R2.4拡大>	毎年10%ずつ増加	1,044人 (H27)	1,155人 (1,148人)	1,005人 (1,263人)	1,335人 (1,389人)	1,849人 (1,528人)	2,358人 (1,680人)	
名鉄東部交通バス <R2.4一部廃止>	現状維持	443千人 (H27)	465千人 (443千人)	455千人 (443千人)	472千人 (443千人)	472千人 (443千人)	375千人 (443千人)	
ふれんどバス	現状維持	270千人 (H27)	279千人 (270千人)	290千人 (270千人)	303千人 (270千人)	304千人 (270千人)	243千人 (270千人)	
佐久島渡船	5%増加	190千人 (H26)	255千人 (192千人)	246千人 (194千人)	243千人 (196千人)	251千人 (198千人)	— (200千人)	

## 6-4 計画の目標

基本方針に基づいて、次の目標の達成を目指します。

### 基本方針① 市民の暮らしに必要な最低限の移動ができるようにします

#### 《目標》

- ・市民がいこまいかーやタクシーを利用して移動できるようにすることで、公共交通空白地をなくし、移動の不便さを軽減します。

#### 《指標》

- ・日常生活で移動に不便を感じている市民の割合を減少  
現状：39.9%、 R3年度：35%（最終年度に市民アンケート調査を実施）
- ・西尾市が住みにくい理由における「交通の便が悪い」の割合を減少  
現状：76.2%（H26年度）、R3年度：50%（隔年で市政世論調査を実施）

### 基本方針② 市内に人の流れをつくり出します

#### 《目標》

- ・市内地域間と市外への移動を確保し、交流を促す交通軸として、鉄道の維持・存続を図ります。
- ・鉄道、バス、いこまいかー、タクシー、渡船間の連携及び各々に必要とされるサービス水準を確保することで、市民の日常生活の利便性向上・交流促進を目指します。
- ・都市拠点、地域生活拠点の形成など、まちづくりの促進に寄与します。

#### 《指標》公共交通機関の年間利用者数の維持・増加

	現状	目標(R3年度)	設定
名鉄西尾・蒲郡線 (西尾駅～蒲郡駅)	3,173千人(H26)	3,673千人	対策協議会目標値 <sup>※1</sup>
六万石くるりんバス	112千人(H26)	198千人	毎年10%ずつ増加
いっちゃんバス	— (H29～)	18千人	1便平均5人以上
いこまいかー	1,044人(H27)	1,680人	毎年10%ずつ増加
路線バス	443千人(H27)	443千人	維持
ふれんどバス	270千人(H27)	270千人	維持
渡船	190千人(H26)	200千人	5%増加

※1：名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会：名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）の存続問題に対する対応策の協議を目的とし、西尾市、蒲郡市、愛知県によって構成される。

### 基本方針③ みんなで公共交通を守り育てる体制をつくります

#### 《目標》

- ・公共交通に関する市民の関心、様々な活動や事業への参画を高めます。
- ・地域にあった単位で地区公共交通協議会を設置し、市民・行政・交通事業者の協働で公共交通の維持・活性化を図ります。

#### 《指標》地区公共交通協議会が主体となった利用促進活動を実施

現状：なし、 R3年度：実施

### 基本方針④ 計画の進捗状況を評価し、定期的に見直します

#### 《目標》

- ・西尾市地域公共交通活性化協議会が、新たに設置する地区公共交通協議会と連携してPDCAを実施し、公共交通の維持・活性化を図ります。

#### 《指標》西尾市地域公共交通活性化協議会と地区公共交通協議会の連携でPDCAを実施

現状：なし、 R3年度：実施